2019年（令和元年）
第139号
（7月1日）

平安月報

The HEIAN monthly report

発　行　所：立正佼成会　京都教会
発行責任者：渉外部長　田中規之
編集委員長：渉外広報　植田恭司
〒605-0041　京都市東山区三条東町 230
TEL (075)762-2211　FAX (075)762-2266

京都教会発足６０周年記念式典　～川端理事長をお迎えし、盛大に挙行～

京都教会発足 60 周年記念式典が６月２日、教会で行われ、1 部式典に 1,125 名、2 部祝賀会に 684 名の参加がありました。

琴の生演奏による迎賓演奏がおよそ 15 分間行われた後、1 部式典では、少年・学生・青年男女代表 60 名による奉献の儀、天井からの散華、読経供養と続き、その後、門川大作京都市長から祝辞がありました。

門川市長は、令和の新しい時代が始まった時に 60 周年を迎えられたことに祝意を表されました。その上で、「様々な地域の課題や地域社会で実践されている皆様に頭が下がります」と述べられました。

また京都市が進めている持続可能な開発目標（SDGs）について触れ、世界中の人が綺麗な水を使え、世界中の人がトイレを使えるといった世の中を目指そうとしていると説明、そういう京都市に文化庁移転が決定していると述べました。先祖を敬い、自然に感謝、子孫に思いを抱き、笑顔いっぱいでつながっていく、よりよく生きていく、より良い世の中を作っていくが大切と話し、今後の京都教会の活動に期待を寄せられました。

その後、会員を代表して乙訓支部、藤井昌代副主任が体験説法。夫や子供との関係に触れ、三法印の教えを通して、自らは家族や周囲の人に支えられてきたことに気づき、サンゲと感謝ができた信仰の功徳を発表すると共に、教団創立 100 年に向け、菩薩を育てられるように取り組んでいきたいと決意を述べました。

次に川端健之理事長からご講話。川端理事長は京都教会が西大路九条にあった頃、自身が青年部員で近畿のメンバーと色んなことを行ったと披露。特に青梅練成道場までヒッチハイクをし、全国の教会に宿泊しながら向かったことを述懐。当時の滝口晃央元教会長からのメッセージも披露しました。

また説法の内容にもふれ、仏さまの道を歩んで、自

分が少しずつ変わっていく藤井さんの喜びが伝わってきたと語り、皆さんのご家族の物語が京都教会の歴史に織り込まれていると述べました。

そして会長先生のご法話の中から、教えが分かると自身の言動が変わると説明。「自分のことより、人さまの幸せを願える心の持ち主になることが、真の幸せを得る宇宙の法則に沿った生き方である」と述べ、お互いさま仏の境地を目指していきましょうと精進を促されました。

佐藤益弘教会長は謝辞の中で、歴代の教会長や教会幹部のお陰さまで今日を迎えられたことに感謝の意を表しました。そしてパンフレットの会長先生のお言葉にふれ、常に生きがいを持って何事にも主体的に取り組んでいくことが皆さまの周年にあたり、諸先輩方への恩返しになるものと述べ、人材育成に全力を尽くし、笑顔いっぱいで布教伝道していくことをお誓い申し上げたいと結びました。

最後に、式典中に少年部が作成したお祝いメッセージを披露。東山普門太鼓による奉祝太鼓で式典は終了しました。その後、会場を体育館に移動し、祝賀会を盛大に開催しました。

時事刻々

先月の十一日～十二日に、Ｇ２０諸宗教フォーラム２０１９京都が開催されました。このフォーラムは、Ｇ２０サミットに合わせ、世界の首脳に宗教界の声を届けるために、サミットの開催国で年々開催されてきました▼１６カ国から約１２０人が参加し、８つの分科会や全体集会で、経済成長や科学技術の発展に伴う社会問題について意見交換をしました。最終日に京都宣言を採択し、日本政府を通してＧ２０サミットに提言されました▼その宣言文には、自国の利益を優先するのでなく、全人類の幸福と、すべての「いのち」が尊重されることを願い、核兵器廃絶の意思を明確に持ち、他国への寛容と相互尊重の立場に立って、協調路線をとることを望むと、述べられています▼何事も相手を非難していては、対立をあおるだけです。今月は参議院選挙が行われますが、自己の損得でなく、調和のとれた社会になり、国民が幸福であることを願って、一票を投じたいものです。

今月のことば　～自由自在に生きる～　西京支部壮年部長　有馬規之

日々ありがとうございます。

西京支部壮年部長の有馬規之です。今月は会長先生より「自由自在に生きる」とのご法話を頂いております。今の私にとって自由自在に生きることができたら、どれほど楽かと思います。

実は今、私は教会活動をすべてお休みさせて頂いています。支部壮年部長のお役を拝命し４年半になりますが、この５月より鬱(うつ)が特にひどくなり教会活動に参加できなくなってしまいました。10 日に一回、仕事もそこそこに切り上げての宿直。宿直者のお手取り、最尊最上であるはずのご本部聖壇のお役、先日の 60 周年記念式典のお手どり…。

人さまに幸せになって頂くためのお手どりがいつの間にか人数集めの手段に。ありがたいはずの種々の活動が、こなさなければならないお仕事に。元々、鬱の因子をもっている私は行事が重なってくると、ありがたいはずのお役が重荷で苦痛そのものになり、何も手につかなくなってしまいました。

会長先生は前段で「自由自在」とは欲にとらわれたり、自分の考えにこだわったりするこころがすっかりなくなり、なにものにもとらわれないこころのありようのこととご指導下さっています。そして人さまを思いやり、人さまとともに向上を目指す生き方の中にほんとうの「自由」があり、「自在」があると教えて下さっています。

どうしてありがたいはずのお役が重荷になってしまったのでしょう？私はいつも自分が何とかしなければならない！宿直は人数を確保のため最大限の努力を払わなければならない！与えられた責任は果たさねばならない！・・・こうあらねばならい、こうあるべき、という気持ちに支配されています。

支部の方々、副部長さん方から「有馬さんは一生懸命なところはすばらしいところだけど、形にはめずにもっと自由にやってみはってもええのとちゃいますか」とよく教えて頂きます。色んな方に協力をもっとお願いしてみたらどうか。ええ（良い）加減ぐらいがちょうどええのとちゃいますかとも。

後段のご法話では仏さまは「智慧の楽」を与えて、ほんとうに自由自在人生を送らせてあげたいと願って下さっていて、それには苦悩を自他の向上につながる楽しみや喜びとして受け止めることと教えて頂きました。

多少のしんどいことがあっても、宿直の人数が足りなくても、行事が目白押しにあっても、それを苦しみと受け止めずに、教会のサンガの皆さま、支部の皆さまと楽しく前向きに取り組める自分になることだと思います。苦悩があるからこそ「前向きにとらえる自由」も与えられていると教えて頂きました。

お休みをいただいている今、妻のありがたさが身に染みます。会話も格段に増えました。副部長さんからは「仏さまから今はゆっくり休む時間を頂いているんやと思いますよ」との温かいお言葉。皆様の温かさが心に染み入ります。

今お休みを頂いていることは自分がもっと楽に生きられる、自由自在な自分になれるための準備のための貴重な時間を仏さまから与えて頂いているのかもわかりません。

会長先生から最後に「おにぎり」の問いを頂いています。私はみんなで等分して分け合うべきという考え方一辺倒でした。しかし、わずか 2/5 個のおにぎりを事務的に分配されても自分も含めみんな満足できなかったかもわかりません。

仏さまの願いからすると、等分にこだわる必要もないのかもわかりません。一番おなかがすいている人に 2 個ともおいしく食べて頂き、他の方には譲った満足感を味わって頂くことも有りかもわかりませんし、場合によっては、自分がありがたく頂いて、元気になることで感謝の気持ちを皆様にお返しするということもありかもわかりません。

活動に復帰できたときには困難があっても、仏さまと一体の大調和の中で生かされていて、今こそチャンスと柔軟にとらえることができ、皆様に悦びと幸せを味わって頂けるようなはたらきができる自分になりたいです。　合掌

祇園祭山鉾巡行曳き手ボランティア　～7 月 17 日に向けて、青年部～

京都・祇園祭ボランティア 21 は 23 日、京都市立開睛小・中学校の六原学舎において山鉾巡行曳き手ボランティアオリエンテーションを開催し、京都教会青年部と新宗連青年部からも 25 名が参加しました。

挨拶の中で公益財団法人祇園祭山鉾連合会の岸本吉博理事長は、創始 1150 年目の節目であり、さらに国の重要無形民族文化財に指定されて 40 周年、ユネスコ無形文化遺産に登録されて 10 周年を迎えると紹介されました。八坂神社の森 壽雄宮司は 1150 年間、その精神が変わらないのは町衆のおかげであり感謝したいと表明すると共に、次代にどのように継承していくべきかを一緒に考えさせて頂きたいと述べました。

説明会が終わった後は、八坂神社に移動し、お祓いを受けました。今回、青年部は放下鉾を、新宗連青年部は孟宗山を担当することになり、7 月 17 日の巡行を迎えることになります。

新宗連京都府協議会　「教団に学ぼう会」を開催

６月20日、京都普門館において、新宗連京都府協議会の学習会「教団に学ぼう会」が開催されました。この学習会は、先日行われた同協議会の総会で決議されたもので、加盟教団の布教活動に資するために、お互いの教えや信仰体験を学び合うために開催されました。

まず、新宗連京都府協議会議長・佐藤益弘氏の「開会のあいさつ」にはじまり、６人の代表者による発表と、最後に同副議長・中村史郎氏の「閉会のあいさつ」で締めくくられました。

教団発表では、ＰＬ京都教会長・三觜富和氏が「教義・経典」として『人の道（在り方）』に沿った生き方を述べられました。２番目に、立正佼成会福知山教会は４人の会員が「法座修行と新しい人への導き」について発表されました。

３番目に円応教副理事長・中村史郎氏が教団独特の修行法である「修法」について述べられ、続いて解脱会京都教区長・田中英次氏が「秘儀三法」（「天茶供養」「御秘法お浄め」「御五法修行」）を紹介されました。

５番目の松緑神道大和山・千賀久氏は平和活動として「一食をささげる運動」の発祥から現在に至るまでの経過を報告され、最後に天恩教教主・鉢呂神龍氏がご自身の信仰体験と新宗連の今後への期待を語られました。

各教団から50名ほどの会員が参加し、それぞれの発表を真剣に聴講し、教団は違っても、教えの精神は共通すること、信仰の大切さを学びました。そして、参加者の多くが、もっとより深く学んでいきたいと、次回の学習会の開催を希望していました。

清掃ハイキング　～京都明社、乙訓明社合同で行う～

京都明社と乙訓明社は16日、清掃ハイキングを実施。阪急西山天王寺駅から小倉神社までの約1.2kmの道中を二手に分かれ、清掃しながらハイキングを行い、会員25名が参加しました。

前日までの雨が嘘のように晴れわたり、各自がゴミ袋を片手に、またある人は金バサミを持ち、道端に落ちている吸い殻やゴミを拾い集めました。

小倉神社に到着した一行は、昼食後、山崎合戦慰霊祭に参列。お祓いを受けた後、代表者が玉串を奉納。天正10年（1582年）の山崎の合戦に思いをはせ、歴史を感じることが出来ました。

日常生活の中の仏教用語　～えっ？こんな言葉も仏教が語源？～

言葉のルーツを知って仏教に親しみを持ちましょう。

【冥利（みょうり）】

善業（ぜんごう）の報いとして、神仏から、知らず知らずのうちに与えられる恵み、ご利益のこと。

一般には、気づかずに受ける恩恵や幸運を指していうことが多い。「商売冥利」「男冥利に尽きる」などの使い方がある。

「冥加（みょうが）」も同じ意味。「冥加の至り」や「冥加に尽きる」のほか、身に過ぎた幸運に恵まれることを「冥加に余る」、命が助かることを「命冥加」といったりする。

（「仏教早わかり百科～主婦と生活社～」から抜粋）

庭野日敬開祖　法話集 ～開祖随感より～

今月は、参議院議員選挙が予定されています。かつて庭野開祖は「政治と宗教は車の両輪」と述べました。私たちは、政治に対してどのように考え、取り組んでいけばよいのか、法話から学んでみたいと思います。

「一票の行使」

宗教は、私たちが毎日生活しているこの社会をよくするためにあるものです。つまり世直しが目的です。それは、ただ祈るだけでは実現しません。祈りはもちろん大切ですが、「よい社会になりますように」と、ただ祈るだけで、現実の社会がすばらしい社会に変わるものではありません。

社会を大きく動かすいちばんの力は政治です。ですから、なによりもまずよい政治が必要なのです。その政治は、どのような政治家を選んでまかせるかにかかっています。

そう考えてくると、選挙の大切さがよく分かってきます。私たち一人ひとりが責任を持って選挙権を行使することによって、国のために本当に役立つ人を国会に送り出すことができます。一票の行使によって国民の意思を国政に反映できる貴重な権利をむだにしてはならないのです。

選挙のたびに、おもしろ半分で立候補する人がおり、また、おもしろ半分で投票する人がいますが、政治を甘く見すぎると、そのつけは自分に回ってきてしまいます。政治がだらしないと非難するよりも、そうした人物を選んだ自分たち自身を反省すべきなのです。

「人間の真の覚醒」

政治も宗教も、つまるところは明るく住みよい社会の建設、そして人類の平和をめざすためのもので、その点においては変わるところはありません。

しかし、政治は、きのう、きょう、あすといった比較的さし迫った日限の中で、どちらかといえば力関係を中心にして動くものであるのに対して、宗教は、過去、現在、未来という長い時間の中で、個人の心の平和とともに理想の社会、平和な世界をめざします。

政治は社会の不正を正すことで社会浄化をめざし、宗教は人びとの仏性（ぶっしょう）を磨きだすことで、平和な世界を築くことをめざすものと言ってもいいかもしれません。

お釈迦さまが説かれた慈悲の教えを自分のものとして、それを、さらに多くの人びとに伝えていきたいという願いが菩薩行なのですが、「三千世界を知るも、なお自己を知らず」と言われるように、人は、まわりの欠陥はよく見えても、自分のこととなると何も見えていないものです。政治も宗教も、まず自らを正して、それぞれの道で人間を真に覚醒させていくことを忘れてはなりません。

「国際法による秩序」

イランの石油はほしいが、さりとて米国の機嫌を損（そこ）ねてもまずいというので、日本は板ばさみになって苦しみました。こちらを立てればあちらが立たずというケースは、狭（せま）くなった地球上では、これからも頻繁（ひんぱん）に起こると思われます。

昨年(1979 年当時)暮れ、イランの首都テヘランで米国大使館がイランの大学生によって占拠され、大使館員が人質として拘束（こうそく）されるという事件が起こりました。

この米国大使館占拠事件に対して日本政府が事態に即応できずに静観したのも、現在の日本が全石油輸入量の一割をイラン石油によっていることが原因の一つだったと思われます。

しかし、世界には国際法というルールがあります。みんなが交通ルールを守り、信号どおりに行動すればこそ全体の安全と秩序が確保できるように、国際法も世界の国々がそれを守ってこそ平和が保たれます。

米国大使館の占拠は明らかにルール違反であり、国際正義にもとる行為です。このような無法行為が世界中に広まれば、世界の秩序は崩れさってしまいます。

それを黙視して自国の小さな損得勘定に走るか、平和を守る国際正義に立つか、道はおのずから明らかです。

（つづく）

7～8月の主な教会行事

7月1日(月)	9:00～	朔日参り
4日(木)	9:00～	開祖さまご命日
10日(水)	9:00～	脇祖さまご命日
15日(祝)	9:00～	盂蘭盆会・釈迦牟尼仏ご命日
8月1日(木)	9:00～	朔日参り
4日(日)	9:00～	開祖さまご命日
10日(土)	9:00～	脇祖さまご命日
15日(木)	9:00～	戦争犠牲者慰霊平和祈願の日 釈迦牟尼仏ご命日

●メッセージ

教会発足 60 周年の式典は多くの皆さまのご協力を頂き、素晴らしいものになったと感じました。散華が天井からひらひらと舞い落ちる瞬間、涙が出てきたとおっしゃる会員さんもおられたそうです。川端理事長さんの「皆さんのご家族の物語が京都教会の歴史に織り込まれている」という言葉には、一人ひとり、そして一軒一軒の救われが 60 年間も続いてきたのだなと改めて感じることが出来ました。これからも皆さんと手を携えて歩みたいと思います。